



本号の主な内容

2面 平成21年度公園緑地・景観・歴史環境等関係予算
【緑滴】「おとこり」という文化
下地浩之(沖縄総支部)
3面 【特集】「CO₂吸収源としての緑を考える」
4面 【協会だより】まだ農業やってますか?岐阜県支部からの報告
【事務局の動き】



550人参加し新年祝う 「新年造園人の集い」開催

「新年造園人の集い」が1月6日、東京・千代田区のグランドプリンスホテル赤坂で行われ、関係者ら550人が参加し、新年の門出を祝った。

「新年造園人の集い」では、冒頭、山田勝巳(社)日本公園緑地協会会长が、多數の発起人を代表して、あいさつ。

「アメリカでは1500億ドル、日本内で14兆円を投じて、500万人の雇用を生み出す環境関連事業「グリーン・ニューディール」がオバマ大統領の元で進められることになつており、そのほか、ドイツ、韓国、日本など、世界規模で環境関連事業が掲げられている。また、横浜市では4年間で100億円

のみどり税が示されており、こうした事業に我々がどう関わつていいのかがこれから課題であり、待つ

ているのではなく、積極的に努力していくかなければならない。そのほか、指定管理者制度は、より広範なものとなっており、公園の管理は、道路や下水道など異なり、単に維持管理というのではなく、どのように

運営していくかなど、その工夫が大いに問われ、造園業界が新たな仕事、雇用を生み出すまたとない機会である。さらに、観光立国、地域の活性化、生物の多様性などの観点から、改めて日本庭園や造園技術が見直

されている。現在の困難な時期を乗り越えれば、素晴らしい時代が来ると信じている。ぜひ力を合わせて乗り越えていきたい」と新年の意気込みを語った。

そして、学界からは、蓑寿太郎(社)日本造園学会会長が、「今こそ生かせ環境時代の造園力」を掲げ、これに Yes We Can を重ねた。これまで環境は認識の時代であったといえるが、これからは行動の時代だ。悲観的な事柄がよく聞かれるが、公園緑地・景観

と述べた。

茂寿太郎(社)日本造園学会会長が、「今こそ生かせ環境時代の造園力」を掲げ、これに Yes We Can を重ねた。これまで環境は認識の時代であったといえるが、これからは行動の時代だ。悲観的な事柄がよく聞かれるが、公園緑地・景観

と述べた。

蓑寿太郎(社)日本造園学会会長が、「今こそ生かせ環境時代の造園力」を掲げ、これに Yes We Can を

21年度予算で注目すべきこと

①低炭素型都市の実現支援のための「緑地環境整備総合支援事業」に温室効果ガス吸収源対策として、500m²以上の公園緑地の整備や公共公益施設の緑化を支援する「吸収源対策公園緑地事業」が新たに追加

②「公園施設長寿命化計画」に基づき、適切に管理されている公園施設については、改築費に助成。計画がない地方公共団体についても、平成25年度まで助成（一部27年度）

③国家的記念事業として閣議の決定を経て整備された口号国営公園の維持管理業務が国営公園版指定管理者制度とも言える企画競争による契約方式に移行（3年契約）

公園緑地関係予算 (単位：百万円)

区分	21年度(A)		前年度(B)		倍率(A/B)	
	事業費	国費	事業費	国費	事業費	国費
国営公園	32,736	32,736	34,644	34,644	0.94	0.94
整備	21,147	21,147	23,112	23,112	0.91	0.91
維持管理	11,589	11,589	11,532	11,532	1.00	1.00
都市公園事業調査費等	329	329	458	458	0.72	0.72
都市公園事業費補助	84,127	34,485	92,241	37,721	0.91	0.91
補助率差額	—	1	—	1	—	1.00
古都及び緑地保全	9,189	4,405	9,827	4,711	0.94	0.94
都市公園防災事業費補助	67,666	27,657	67,035	27,250	1.01	1.01
補助率差額	—	—	—	5	—	—
小計	194,047	99,613	204,205	104,790	0.95	0.95
緑地環境整備総合支援事業費補助	13,484	5,458	13,128	5,314	1.03	1.03
合計	207,531	105,071	217,333	110,104	0.95	0.95

国交省 平成21年度公園緑地・景観・歴史 環境等関係予算のポイント

国土交通省の平成21年度公園緑地・景観・歴史環境等関係予算概要が1月発表され、①地球温暖化の防止、ヒートアイランド現象の緩和、生物多様性の保全、自然再生等に資する公園緑地の保全・創出を図る「持続可能なまちづくりへの対応」、②地震災害時の避難地・避難路・復旧・救援活動の拠点・延焼防止等となる防災公園の整備、都市公園パリアフリー化対策等への緊急的な支援を行う「安全安心な都市の形成への対応」、③歴史的建造物等の復元・修理等や歴史まちづくり法に基づくまちなみ形成、城跡・古墳等の歴史的・文化的資源と一体となつた都市公園の整備、景観法の活用などハード・ソフト一体の取り組みに支援する「歴史と文化に根ざした美しい地域づくりへの対応」、④地域住民やボランティア、民間事業者等の多様な主体の参画・協働による緑とオーナンスベースの確保と活用を図る「参画社会への対応」の4つを基本方針に重点的に取り組み、良好な景観と緑豊かな都市環境の形成を推進することとしている。

予算は、事業費2075億3100万円、国費1050億7100万円で、ともに対前年度倍率0.95倍。予算のポイントは5つとなっている。

緑地環境総合支援を拡充

①「低炭素型都市の実現を支援する緑地環境整備総合支援事業の拡充」では、園緑地の保全・創出のための取り組みを推進。

安全・安心対策を推進

②「都市公園安全・安心対策緊急総合支援事業の創設」で、市街地の防災性や

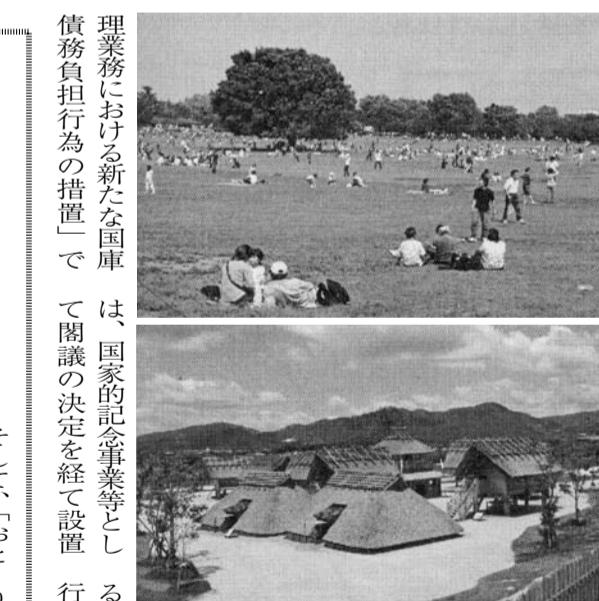
公園施設の安全性の向上にかかる対策が遅れている地

方公団体について、都市公園の防災機能の向上、バリアフリー化、公園施設の

安全確保等、総合的な安全対策を一括して緊急かつ計画的に推進する。

③「地域活性化に資する多様な主体による公園整備の推進」では、個性豊かで魅力ある地域づくりを促進

④「口号国営公園維持管



された口号国営公園で新契約方式に移行する昭和記念公園(上)と吉野ヶ里歴史公園(下)

理業務における新たな国庫は、国家的記念事業等として閣議の決定を経て設置債務負担行為の措置」で、開催の決定を経て設置行為を活用した複数年度契約を導入す

いて、一層の効率化を図りつつ、安定的なサービスを提供するため、平成21年度より、企画競争による契約手続を導入す

援事業に歴史的建造物をかかれた防災施設の整備を追加的に保全していくため、新たに歴史的環境形成総合支

被災地に対する総合的支援のイメージ



「おとーり」という文化

沖縄には「おとーり」という文化が古来より伝わっています。普段くと言えば、お酒を酌み交わす習慣のことです。全国各地にも同様の習慣、文化は存在するとは思いますが、沖縄の県民性や風土を紹介する上で、分かりやすく親しみやすい題材だと思います。

「おとーり」の起源については、限定でできる正確な資料はまだ見つかっておりませんが、一説によると1386年に、沖縄県の離島のひとつである宮古島を当時統治していた与那覇頭豊見親(よなはとゆみや)が琉球の中部域を治めている中山王察渡のもとへ朝貢する際に航海の安全と大願成就を祈願して一族でお神酒の回し飲みをしたことにあります。

以来600年以上の歴史の中で時代の変遷にあわせて少しづつ形を変えながら残り続けている文化をそこで、現在に残る「おとーり」を説明します。

行われるのは、豊年、大漁や安全感などの祈願を行う神事の席や、結婚式や落成式などの祝いの席などであります。そこでの現在に残る「おとーり」を説明します。

予算は、事業費2075億3100万円、国費1050億7100万円で、ともに対前年度倍率0.95倍。予算のポイントは5つとなっている。

緑地環境総合支援を拡充

①「低炭素型都市の実現を支援する緑地環境整備総合支援事業の拡充」では、園緑地の保全・創出のための取り組みを推進。

安全・安心対策を推進

②「都市公園安全・安心対策緊急総合支援事業の創設」で、市街地の防災性や

公園施設の安全性の向上にかかる対策が遅れている地

方公団体について、都市公園の防災機能の向上、バリアフリー化、公園施設の

安全確保等、総合的な安全対策を一括して緊急かつ計画的に推進する。

③「地域活性化に資する多様な主体による公園整備の推進」では、個性豊かで魅力ある地域づくりを促進

④「口号国営公園維持管



「おとーり」という文化

沖縄には「おとーり」という文化が古来より伝わっています。普段くと言えば、お酒を酌み交わす習慣のことです。全国各地にも同様の習慣、文化は存在するとは思いますが、沖縄の県民性や風土を紹介する上で、分かりやすく親しみやすい題材だと思います。

「おとーり」の起源については、限定でできる正確な資料はまだ見つかっておりませんが、一説によると1386年に、沖縄県の離島のひとつである宮古島を当時統治していた与那覇頭豊見親(よなはとゆみや)が琉球の中部域を治めている中山王察渡のもとへ朝貢する際に航海の安全と大願成就を祈願して一族でお神酒の回し飲みをしたことにあります。

以来600年以上の歴史の中で時代の変遷にあわせて少しづつ形を変えておりませんが、一説によると1386年に、沖縄県の離島のひとつである宮古島を当時統治していた与那覇頭豊見親(よなはとゆみや)が琉球の中部域を治めている中山王察渡のもとへ朝貢する際に航海の安全と大願成就を祈願して一族でお神酒の回し飲みをしたことにあります。

そこで、現在に残る「おとーり」を説明します。

行われるのは、豊年、大漁や安全感などの祈願を行う神事の席や、結婚式や落成式などの祝いの席などであります。

そこで、現在に残る「おとーり」を説明します。

